

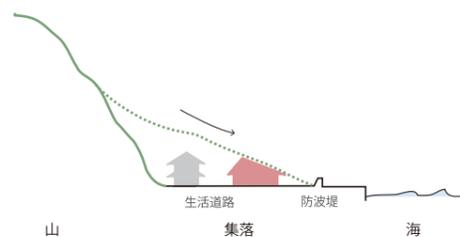


大島ぽーと

海と山のあいだの ゆるやかなつながり

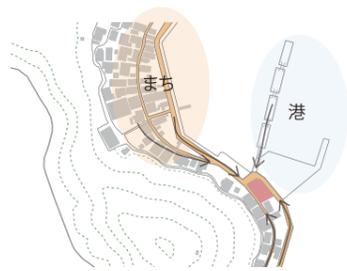
CONTEXT 大島交流拠点の周辺環境

海と山のあいだ



大島の人々は漁業と農業を生業とするため、海と山のあいだの地形と共存しながら、年月を重ねてきました。集落は海と山のあいだに寄り添うように形成されてきました。大島交流拠点は海と山のあいだの地形や周辺の集落と寄り添うように佇むべきと考えます。

まちと港のあいだ



敷地はまちと港のあいだに位置するため、地域の人々と観光に訪れた人々との交流の場所です。更に、山側の住宅街をつなぐかつての生活道路と海側の新しい防波堤に守られた漁業かつ現在の生活道路に挟まれています。大島交流拠点はそれぞれの動線につながる場所となるべきと考えます。

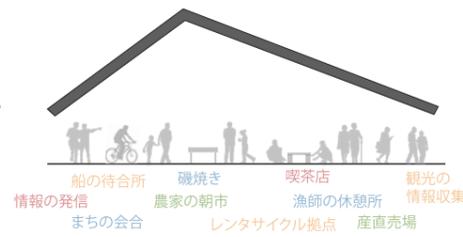
CONCEPT つながりが生まれる空間構成

木の下コミュニティ



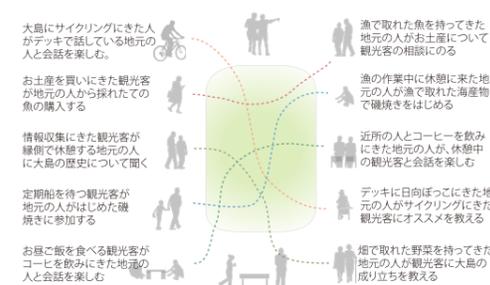
古来より木の下には身分や立場を超えて様々な人々が集まり会話が生まれ、やがて教育・哲学・宗教などに発展していきました。木の下には地域の人、観光にきた人、お年寄り、若者、男性、女性様々な人々が集うことができます。

大屋根の下のアクティビティ



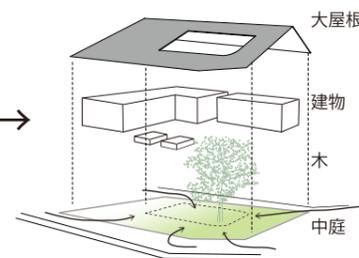
大屋根の下のファンルーム空間は様々な活動を許容します。観光の拠点、地域の拠点、産業の拠点、まちづくりの拠点、いくつもの活動がフレキシブルに同時多発的に行われます。

中庭を囲むネットワーク



中庭を囲み様々な活動をしている人々が、ゆるやかにつながっていきます。偶発的な出会いや会話が不定期に生まれていきます。

大島交流拠点



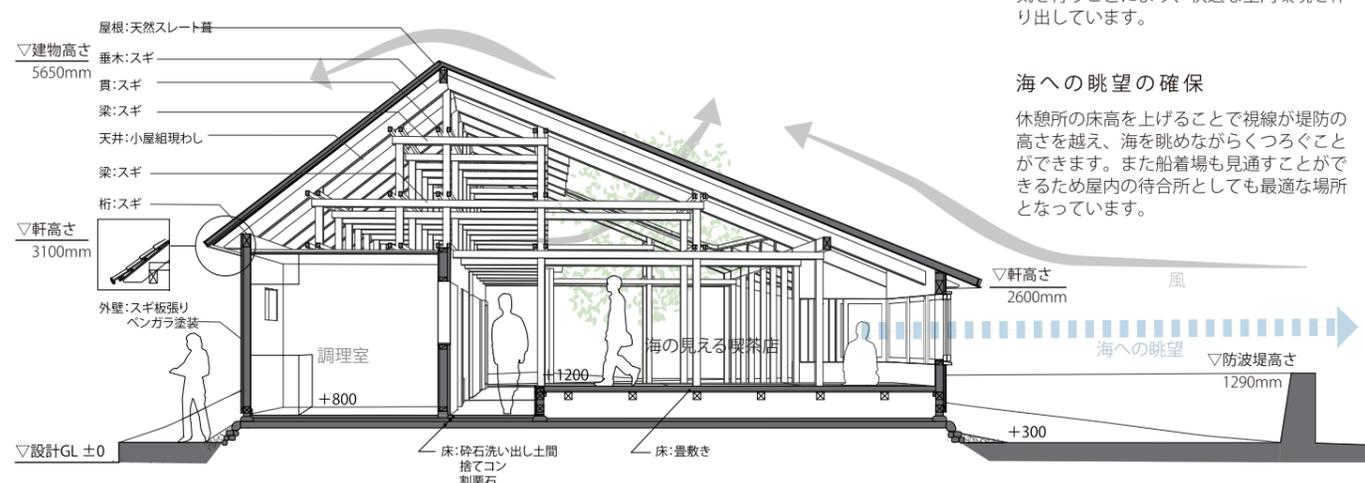
地域の人々、観光に訪れた人々、どちらにも必要な場所をつくっていくことでお互いの交流が生まれる場所となっていきます。

PLAN



平面図 1/150
 室内床面積 73.2㎡
 法定床面積 97.9㎡

SECTION



断面図 1/100

地元産建材の利用

愛媛県産を利用することで、建物の色彩を地域の色に馴染ませます。
 構造材・外壁・仕上げ木材…愛媛県産姫杉
 外壁塗料…ベンガラ
 石張り…青石もしくは大島産の石材

風への配慮

軒の高さを低く抑えることによって、海からの風が屋根の上を通り抜けていくように配慮しています。中庭は北側から入り込む風を上部へ逃がす役割を担うとともに、夏には建物内への風通しを良好にし、自然換気を行うことにより、快適な室内環境を作り出しています。

海への眺望の確保

休憩所の床高を上げることで視線が堤防の高さを越え、海を眺めながらくつろぐことができます。また船着場も見通すことができるため屋内の待合所としても最適な場所となっています。

石のエンタランス

地元でとれる石材を床に使い周囲の道路から緩やかに中庭に人を導きます。

シンボルツリー

地元でみられる木をシンボルツリーとして、中庭に配置します。木の下のベンチでは気軽に木陰に腰掛ることができます。

磯焼きテラス (朝市テラス)

地元で取れた新鮮な魚介類、農産物を焼き、みんなで囲みながら食べるのできる場です。誰もがふらりと立ち寄れる建物の中心に配置しています。

庭への小径

敷地西側の道路から中庭を介して人を建物に導きます。この島の住宅地に古くからみられる細い小径をつくることで、海からの風を通し、道路を歩く歩行者への威圧感を軽減します。

潮風デッキ

海側の堤防に面した軒下空間には小上がりのようなベンチを配置し気軽に立ち寄れる場所をつくりだします。ベンチは自由に動かすことができ、朝市の縁台や庭を囲むベンチになります。

海に見える喫茶店 (休憩所・乗船待合所)

高さの上がつた畳の間は、堤防越しに海を眺めながらくつろげる場所となっています。畳とすることで人数を気にすることなく多様な利用の仕方に対応しています。

レンタサイクル保管所

観光客のためのレンタサイクルは、屋根下の雨の吹き込みがない場所に保管することができます。海側、山側、どちらからもアクセスすることができます。



東側海岸沿いよりエンタランスをみる



中庭を囲む縁側



海に見える喫茶店より中庭をみる